

全学共通教育についての自己点検・評価報告書（教育部会用）

教育部会名：農学教育部会

部会長名：白井 康仁

作成者名：白井 康仁

概要（2 ページ）

農学教育部会は、主に農学研究科に主配置あるいは配置されている教員で構成されている。その中から、2～4名の教員がグループを組み、オムニバス形式で、「食と健康 A」を第1クォーターと、第3クォーターに、「食と健康 B」第2クォーターと、第4クォーターに、「生物資源と農業 A～D」それぞれ、第1クォーターから第4クォーターまで開講している。

「食と健康」では、人の「健康」と密接に関係する「食」を科学的視点でとらえて行われてきた「学問的成果」の中から、今後持続可能な開発・発展を進めていく上で重要な事項について幅広く理解を深めるために、農産物の生産、食品の機能性、遺伝子組み換え作物、農薬など食の安心安全にかかわる講義を行った。具体的には、「食と健康 A」（第1クォーター木曜1限）では「食品の微生物危害」、「タンパク質の構造と機能」、「微生物の生理・代謝と利用」に関する講義を河野、宇野、竹中により行った。「食と健康 B」（第2クォーター木曜1限）では「動物性食品（肉、乳、卵）」、「遺伝子改変作物」、「腸内細菌」に関する講義を白井、金丸、大澤により行った。「食と健康 A」（第3クォーター火曜2限）では「食品の安全性を確保するしくみ」、「植物の色・香り」、「食品の機能」に関する講義を福田、水谷、芦田により行った。「食と健康 B」（第4クォーター火曜2限）には、「食肉偽装とDNA鑑定」、「保険機能食品と機能」、「食品の2次機能」などの講義を万年、山下、藍原らにより行った。

一方、「生物資源と農業 A」（第3クォーター木曜1限）では、安田、杵本らが、身近な果物である「リンゴ」を教材として取り上げ、品種・果実構造・栽培管理（結実管理、着色管理、病虫害防除など）を概説し、生産者、消費者、環境の視点からリンゴ産業（農業）の抱える問題を学生たちに理解させた。また、地球環境と食糧生産における植物の役割について概説し、食糧増産と肥料技術の進歩との関係、食品加工技術の進歩についても講述した。「生物資源と農業 B」（第4クォーター木曜1限）では、新種が誕生するには？という基礎的な内容から、品種改良の材料としての野生種の探索とその遺伝資源としての評価までという応用研究について、山崎、金地、畠中らが紹介した。即ち、農作物の栽培化や交雑育種、一代雑種育種等の近代育種の方法論について説明するとともに、農業と地理・気象との関連性をテーマに地球温暖化(IPCC 報告)の影響について日本並びに世界の現状と未来予測を解説した。さらに、身近にある農業生産物について、どんな植物からどのように作られるか、一部ビデオを使用して解説した

自己点検評価に関しては、概ね良好であった。例えば、学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等に配慮するため、アンケートなどを実施に翌年あるいは次回の講義に反映させているなどの工夫が見られた。また、具体的なイメージがもてるよう講義中に遺伝子組み換え実験に使用する器具を見せたり、触らせたりするなどの工夫がみられた。さらに、必ず小テストやレポートを課し、それをもとに成績をつけるという成績の付け方や遅刻者に対する対応など各教官間の不均衡も、シラバスに明記することや、最初のガイダンスで伝えることにより是正され、成績評価、単位認定がより適切に実施されるようになった。従って、「適切なシラバスが作成され、活用されているか。」「成績評価基準が策定され、学生に周知されており、その基準に従って、成績評価、単

位認定が適切に実施されているか」などに関しては、主担当教官が各クォーターの最初に、成績基準について学生に説明していること、オムニバス講義を担当する教員に成績評価基準が浸透していることから、十分できていると判断できる。ただ、1 昨年よりクォーター制になったため、特に高学年において教育実習などで3 回休まざるを得ない学生の成績評価が昨年より問題となっている。即ち、オムニバス講義のうち3 回休むと、ある担当教員の講義はひとつも受講しなかったことになる。これらの学生には、レポートなどで対応してきたが、教員の負担が大きいことも事実である。この問題に関しては、平成 29 年度よりシラバスに「本講義はオムニバス形式で開講し、その理解度を毎回の小テストなどで評価するため、3 回以上欠席した場合は原則不可となるので、履修する場合は注意すること」と明記したため、かなり改善できた。

一方、本講義はオムニバス講義であるため、講義内容が広く浅くなりがちであるという側面を有している。しかし、毎回講義の最後に、講義全体の中で一番印象に残った内容を聞くと、「農薬や組み換え植物の安全性に関する考え方がかわった」とか「食品そのものの安全性や保存方法に気をつけるようになった」とか、非常に好評価であった。特筆すべきことは、それぞれの学生が異なる講義に興味を示し、実に多様な回答をしたことである。即ち、学生の興味は必ずしも一様でないことから、本講義はかえってオムニバス形式の利点が生かされており、「多様な学習の達成度や満足度に対応できていた」といえる。その反面、最大の問題点は、同タイトルの講義であっても、教官の変更に伴い学習内容が異なることである。特に、本年度は「食と健康 A と B」において、その傾向が顕著であった。今後は、講義名の変更だけでなく、講義間、学年毎の学習内容の統一性〔テキストの作成〕などの工夫が必要と思われる。このような工夫をすることで、教育部会の一部の教員に講義負担が偏っているという現在の問題を改善できると期待される。

また、本講義ではレポートを課している授業もあることから、かなり自宅などでの学習を余儀なくされており、それによる学習効果も年々上がっているように思える。また、質問などに関しては、各教官のメールアドレスを公開したり、毎回の小テストの際に質問を記入させ、次の講義で回答するなどの工夫がみられてきてはいる。しかし、本当に学習意欲がない学生へのアプローチや、学力不足への学生の対応などを検討する余地があり、「基礎学力不足の学生への配慮等が行われているか」に関しては、課題も残る。今後、本講義で、食や農産物、あるいはその安全性に興味をもった学生達に今後自ら色々なことに興味を持ち、学習して（調べて）いけるモチベーションとその方法をしっかり伝えていく必要がある。

以上、概略的には、本教育部会の担当講義においては、概ね目標を達成していると評価できると考える。

項目・観点ごとの記述

基準 5 教育内容及び方法

5-1 【教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）が明確に定められ、それに基づいて教育課程が体系的に編成されており、その内容、水準が授与される学位名において適切であること。】

5-1-③： 教育課程の編成又は授業科目の内容において、学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等に配慮しているか。

観点に係る状況（150字以上）

配慮している。例えば、レポートやの小テストの際に行うアンケートの結果などを考慮し、学生の多様なニーズに合わせて講義スタイルを修正してきている。また、近年では福島の原子力発電所、食肉偽装、食中毒など、そのときにタイムリーな話題に関連づけて講義している。実際様々な、学生がそれぞれ異なる講義内容に興味を示している。

根拠資料

シラバス、アンケート、小テストなど

5-2【教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等が整備されていること。】

5-2-①： 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態の組合せ・バランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法が採用されているか。

観点に係る状況（150字以上）

おおむねされているが、今後の努力も必要である。

オムニバス形式の講義であるため、ほとんどの教員が、パワーポイントを用いているが、一方向性にならないように、レポートを書かせ、次の講義で対応したり、コメントを返したり、小テストに対して回答するなど、対話形式の講義を心がけていた。さらに、実際に遺伝子組換えに使用する実験器具を手にするなどの工夫が見られた。しかし、その一方で一方向性の講義で終わったものもある。

根拠資料

小テスト、アンケート、シラバス

5-2-②： 単位の実質化への配慮がなされているか。

観点に係る状況（100字以上）

はい。すべての講師が小テストやレポートを必ず実施し、それをもとに成績をつけている。出席状況や受講態度などの平常点に対する評価も各教官間で不均衡がないよう周知している。また、かつては遅刻者に対する対応などに講師間のバラツキなどがあったが、近年統一性が認められる。さらに、自宅学習を促進させるような工夫もされている。

根拠資料

レポート、シラバス、アンケート

5-2-③： 適切なシラバスが作成され、活用されているか。

観点に係る状況（50字以上）

はい。学習目標が明確に定められているだけでなく、各講義内容、講義時期、評価方法などが明確且つ端的にまとめられている。

根拠資料

シラバス

5-2-④： 基礎学力不足の学生への配慮等が行われているか。

観点に係る状況（100字以上）

はい。シラバス及び講義中に教官のメールアドレスを公開し、オフィスアワー中に対応しているが、学力不足や学習意欲がない学生などへの対応をとくに行っていない。今後、遅刻や欠席が多い学生などへの呼びかけなどは必要かもしれない。

根拠資料
シラバス、オフィスアワーを実施した記録

5-3 【学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）が明確に定められ、それに照らして、成績評価や単位認定、卒業認定が適切に実施され、有効なものになっていること。】

5-3-②： 成績評価基準が策定され、学生に周知されており、その基準に従って、成績評価、単位認定が適切に実施されているか。

観点に係る状況（100字以上）
はい。すべての講師が小テストやレポートを必ず実施し、それをもとに成績をつけている。出席状況や受講態度などの平常点に対する評価も各教官間で不均衡がないよう周知している。また、これらの評価基準に関しては、シラバスに銘記されている。さらに、最終成績は、すべての教員にフィードバックされ、チェックされている。

根拠資料
シラバス及び規約

5-3-③： 成績評価等の客観性、厳格性を担保するための措置が講じられているか。

観点に係る状況（100字以上）
評価方法はシラバスに明記されている。さらに、すべての小テストあるいはレポートの点数を責任教官がとりまとめた後、各講師にフィードバックさせ、客観性、厳格性を担保している。また、問い合わせのあった学生には小テストなどの点数や成を公開している。

根拠資料
シラバス、出席簿、成績表、教員間メール

基準6 学習成果

6-1 【教育の目的や養成しようとする人材像に照らして、学生が身に付けるべき知識・技能・態度等について、学習成果が上がっていること。】

6-1-②： 学習の達成度や満足度に関する学生からの意見聴取の結果等から判断して、学習成果が上がっているか。

観点に係る状況（100字以上）
様々な方法で、講義の感想という形でアンケートをとっているが、色々な学生が実に多様な講義に関心及び満足度を示しており、オムニバス形式の講義の利点を最大限に生かすことにより、学習効果が上がっているといえる。

根拠資料
レポート、アンケート

基準7 施設・設備及び学生支援

7-1 【教育研究組織及び教育課程に対応した施設・設備等が整備され、有効に活用されていること。】

7-1-④： 自主的学習環境が十分に整備され、効果的に利用されているか。

<p>観点に係る状況（50字以上）</p> <p>レポートを書かせる、テストを行うなどして、学生の自主的学習を促している。ただ、学生はネットにたよる部分も多く、関連図書が図書館に十分に用意されていなかったり、学生の図書館利用率が低いなど改善の余地もある。</p>
<p>根拠資料</p> <p>成績、シラバス、神戸大学図書館所蔵書リスト</p>

7-2【学生への履修指導が適切に行われていること。また、学習や課外活動等に関する相談・助言、支援が適切に行われていること。】

7-2-①： 授業科目のガイダンスが適切に実施されているか。

<p>観点に係る状況（100字以上）</p> <p>責任教官が最初の講義において、概要、成績評価方法、遅刻者に対する対応、欠席などの諸注意を行っている。しかし、未だ遅刻者も多いことから、十分に単位の取得方法や遅刻の取り扱いなどを理解しているのか疑問が残る部分もある。</p>
<p>根拠資料</p> <p>シラバス、講義、出席簿</p>

7-2-②： 学習支援に関する学生のニーズが適切に把握されており、学習相談、助言、支援が適切に行われているか。
また、特別な支援を行うことが必要と考えられる学生への学習支援を適切に行うことのできる状況にあり、必要に応じて学習支援が行われているか。

<p>観点に係る状況（100字以上）</p> <p>学生のニーズに関しては、レポートや先述のアンケートなどにより、ある程度把握できていると思われる。また、学習支援に関しては、参考文献を適時紹介したり、教官のメールアドレスを公開し、オフィスアワー中に対応するなどしているが、さらなる努力も必要かもしれない。</p>
<p>根拠資料</p> <p>シラバス、講義</p>